

## 長野県食と農業農村振興審議会南信州地区部会議事録

### 1 日 時

令和4年9月30日(金)午後2時から4時まで

### 2 場 所

長野県飯田合同庁舎 講堂

### 3 出席委員

古田和夫（長野県農業経営者協会下伊那支部長）  
宮澤千文（長野県農村生活マイスター協会飯伊支部長）  
高坂つかさ（阿智村 農業者）  
木下義隆（飯田市 農業者）  
北原とし子（長野県農業委員会女性協議会南信州支部長）  
塩澤 昇（みなみ信州農業協同組合常務理事） 部会長  
原 昭章（長野県小渋川土地改良区理事長）  
小澤めぐみ（飯田下伊那栄養教諭・学校栄養職員部会代表）  
河合伊津子（(有)あちの里 取締役）  
松江良文（飯田市産業経済部農業課長）

### 4 次 第

- (1) 開 会（南信州農業農村支援センター所長 佐々木直人）
- (2) あいさつ（南信州地域振興局局長 丹羽克寿）
- (3) 会議事項（議長：部会長 塩澤昇）
  - ア 第4期長野県食と農業農村振興計画(案)について
  - イ 南信州地域の発展方向（案）について
  - ウ 長野県食と農業農村振興計画の推進に関する意見・提言
- (4) 閉会（南信州農業農村支援センター所長 佐々木直人）

### 5 意見交換

- (1) 南信州地域の発展方向（案）第4期長野県食と農業農村振興計画(案)について

#### 【松江委員】

・重点取組5の具体的な施策展開の中に南信州牛が入り、以前の意見交換の内容が反映されたことは感謝しております。しかし、この重点取組5は交流を主体にした項目でして、南信州牛はその80%が京都市場に出荷され、また海外などでも流通していることから、どちらかというと、儲かる農業であるとか、生産基盤の拡大とのくくりで捉えるものと考えております。重点取組3に、信州プレミアム牛肉・銘柄豚があり、南信州の各農家がそれぞれのブランドを持っているということを象徴して銘柄豚という言葉を使い始めたのもこの地域だと記憶しており、それと同じような意味で南信州牛があります。重点取組3に反映していただけると嬉しいというのが意見です。

<佐々木所長>

・生産振興という部分から言いますと重点取組3に南信州牛が位置づけられるため、この点について検討してまいります。

### 【松江委員】

・重点取組6の指標で、学校給食における県産食材の利用割合を目標に掲げておりまして、県全体計画の指標と共通とのことですが、飯田市で地元産の食材と言いますと、この南信州管内で生産されたものの割合を出している状況があります。南信州地域の計画ですので、できれば県産よりも、南信州管内の食材使用割合を目標とすることがより望ましいと思います。

### <佐々木所長>

・県産食材を南信州に限定した指標が望ましいですが、県全体の指標の考え方も未定のため、今のところは県全体という捉え方になっています。利用割合は、教育委員会にご協力いただいて調査しますが、現計画の中では年間2回、6月と12月に限定して調査しています。年間通して集計すれば、本当に正確な調査ができますが、労力的な制約もあり、現在そういう考え方でおります。県全体の指標を南信州の指標とする考えですが、その捉え方については県に意見として伝えたいと思います。

## (2) 長野県食と農業農村振興計画の推進に関する意見・提言

### 【古田委員】

・重点取組2の日本なしの課題につきまして、いかに今後継続していくか大変なことと感じております。老木もありますが、高齢化も進んでおりますので、特に重量作物のため、収穫は重労働でなるべく若い方が入ってくれるような施策があればいいと思います。下條村でも地域おこし協力隊の1人が去年1年間実習して、今年度から3軒農家の土地を引き継ぎ80aの経営を始めていくということです。土地付き古民家も購入し、日本なしを栽培していきたいと、こういう頼もしい青年が1人入り、大変期待しています。農業に憧れて、やりたい人が1～2年間経験、就農して、うまくリレーできるといいと思います。これは夢みたいな話だと思いますけれども、期待したいところです。

・下條村にまんまの会という若い農業者の嫁さんが中心の組織が2年前からあります。農業をやっていく上に不安もあるし、楽しみがあり、小さい子供を抱えながらの農業の中で、いかに農業をやっていくとかいろいろな悩みが出てくるわけで、仲間と一生懸命活動しております。直売をしたり、講演会を聞いたり、若い女性たちが新しい考え方で、意欲的に農業していくための活動ができているようです。

### 【宮澤委員】

・農産物の価格の低迷が担い手不足に繋がっており、若い人がなぜ定着しないかといえば、食べていけないからということが新聞に載っておりますが、その通りだと私は思っております。近くで地域おこし協力隊がりんご農家を目指して、栽培を学びながら、研修の受け入れ農家の農地を継承してやっていきたいという希望があるようなので、感動しております。儲かる農業を私も目指しておりますけれども、皆さんと話し合いながら、考えていきたいと思っております。

・農村生活マイスターでは、若い人が草刈機とか、機械の扱いが苦手な人が多くて、今度はその講習会を農協を通じて実施します。自分で機械を動かすきっかけとなればありがたいと思っております。

### 【高坂委員】

・重点取組5の農村の交流について、南信州観光公社で、地域外の小・中学生、高校生の農家民泊の受け入れがあり、農家にとっても、中学生にとってもすごく刺激になり、とても大切なことだと思っております。これを大学生とか、社会人などもっと広げて、農業スタディツアーがあっても面白いと思います。

南信州のいいところをPRする観光と連携すれば、より広く農業を知ってもらう機会を増やせると思います。

- ・担い手確保のことで、南信州の中でも本当に中山間地が多い西南部地区と、飯田以北では異なると思います。西南部地区ですと、稼げる農業というよりは、農を感じながら生活するというか、農が生活の一部で楽しめて、生活がしていけるという新規就農の方が多い、稼ごうという気持ちがある方は産地の方に行く気がします。つまり、新規就農者を募る際にも地域に応じたアプローチの仕方が必要と感じます。

#### <佐々木所長>

- ・果樹経営の継続のため、高齢化には軽労化が必要とのご意見について、スマート農業が一つのキーワードになると思っています。軽労化では、アシストスーツが開発されてきており、体に負担がかからないようなやり方がこれから必要と思います。県ではお試し事業として、アシストスーツを無料で貸し出し、その効果を体験していただける事業を設けておりますので、一度お試しいただくのもいいと思います。実際に使っていただいた方のご意見をお聞きしますと、特に夏場は装着すると暑いという問題があり、普及が進んでないところがあります。価格的にも高価なため、低価格で扱いやすいものが出てくるともっと普及すると思います。
- ・地域おこし協力隊員の事例をお話いただいて、今ある樹園地をいかに継承していくかが課題と思います。今回の計画の中でも市田柿では樹園地継承という言葉を使っておりますけども、市田柿に限らず果樹の場合、樹園地継承が一番大事と思っています。JAでも柿バンクの取組があり、市田柿ブランド推進協議会でもこの園地継承を課題提起しておりますが、これという解決策が難しく、特に市町村の間の情報の共有化が課題となっております。次期計画の中では、農地中間管理事業を絡めながら、この樹園地継承をうまく進めていく仕組作りを検討していきたいと思っております。
- ・若い人がどうして定着しないのか、儲かる農業を目指すべきとのご意見について、同じ面積でも収量が得られるとか、労働時間が短縮されるなど、生産性向上、省力化を追求していくのが大事と思います。
- ・機械の講習会について、農村生活マイスター協会の主催ですが、支援センターも一緒に今回研修会を企画しております。研修会を通じて特に女性の皆さんの農作業安全も含めて技術向上につなげていきたいと思っております。
- ・農村スタディーツアーのご提言をいただきまして、大変良い視点だと思っております。農家と子供たち、社会人、中学生、そういった皆さんに交流を通じて、農業の現状、魅力など伝えていくのは大変重要だと思いますので、観光+農業で位置づけをしておりますけれども、観光サイドとも連携しながらPR等、観光のノウハウも活用しながら、取組んでまいりたいと思っております。
- ・担い手の確保について、地域によって条件が違うので、それぞれに合った担い手の確保のアプローチが必要とのご意見、まさにその通りです。就農作戦会議を今年は6月に開催し、今年は市町村の担当者とIターンの就農者をどうやって定着させるかというテーマで意見交換しました。ブロックごとにすすめるべきではないかということで、先日は南部ブロックで意見交換の場を設けました。今後もブロックごとに地域に合ったアプローチの仕方、これを意見交換、協議しながら進めてまいります。

#### <農業農村支援センター阿南支所 檜山支所長>

- ・下條村の女性農業者によるまんまの会の活動について補足します。組織で大豆を栽培して、地域の皆様に一緒に参画をいただいて、は種から収穫まで体験、さらに味噌や豆腐加工という、地域的に広がりのある活動にも取り組んでおります。そういった活動がさらに地域に広がっていくような取組も大変重要

と私どもも考えております。

#### 【木下委員】

- ・新規就農した知り合いがいて、機械取得のために補助金を活用しようとしたが、書類作成等の説明が不足しており、わからないことが多くて困ったとの相談を受けました。書類作成についても手助けいただくと、新規就農もしやすくなると感じました。
- ・新しい栽培方法にとっても興味がありますが、取り入れたいと思っても苗が入手困難でなかなか取り組みません。安定的に苗木が確保できれば、面積を増やしていけると思います。

#### 【北原委員】

- ・飲食店を営んでいます。清内路かぼちゃ、みょうが、きゅうりなど、伝統野菜や地元野菜が結構あり、そういう野菜を出すお店にすると、村長からも要望を受けます。伝統野菜とか地元野菜を使って料理を出すお店は少ないと思います。一生懸命作ってもそれをPRして料理にしなければ、それは多分栽培するだけで終わってしまうので、農業生産振興に繋がるようなことも考えていくといいと思います。
- ・前回も婚活の話をしたのですが、コロナであまりできないのですが、人と人を結びつけるのはなかなか難しいです。阿智村だけでは、人数が限られおり、飯田下伊那の中で独身の方の交流会があったら、跡継ぎが頑張って家族を養っていけるようになると思います。
- ・女性の機械を扱える人を増やすための講習はいい取組だと思います。農業は夫婦両方一緒にやるほどでもなくて、分担をして、今まで手を引いていましたが、夫がずいぶん歳を取ってきて、農業が回っていかなくなりました。今後は私も手伝わなければならないと思うのですが、機械の扱いが難しいというか、覚えられないこともあります。近所でも、今まで男性がやってたけど、この頃女性がビーバーをやるようになったとの話を聞きました。農地パトロールでも、草ぼうぼうで、草刈する人もいないことが多いので、女性も機械の仕事をできるように育てていくことが必要です。研修会は大規模に開催するのではなくて、小規模に数多く開催してほしいです。

#### 【原委員】

- ・飼料や肥料の価格高騰が、農家を非常に苦しめております。この危機を乗り越えるには国、県、市町村の支援が必要ですのでお願いしたいと思います。
- ・築造後半世紀を経た地域の大規模農業水利施設を維持するには、農家だけでは到底できないので、今までどおり県のご協力をお願いして、引き続きの支援をお願いしたいと思います。
- ・子供たちが伝統野菜やそういった農産物についての学習により、地域の食材が自分たちの給食に使われることを知り、本当に将来の食育に繋がると思っております。給食を通じた子供たちの食育指導もお願いをしたいと思います。

#### <佐々木所長>

- ・補助事業等の書類の作成については、農業農村支援センターでお手伝いできる部分は当然やってまいりますし、市町村の農政担当者も御支援はされていると思います。何か困ったことがあれば、ご相談ください。
- ・果樹苗の安定的な供給について、県では特にりんごのフェザー苗は育成に時間がかかることがあって、その安定供給には事業として取り組んでいるところです。果樹の場合、苗木づくりに年数を要するため、

種苗業者としてもあらかじめ目鼻が立たないと、まとめて生産できません。JA等の事前予約注文等を通じて、安定的な苗木生産が可能な仕組みづくりが大事で、その点もご理解いただけたらと思います。

- ・伝統野菜の飲食店での活用促進について、今回の計画の中でも、重点取組5で方向性として示しています。今年度、全県で実施中の伝統野菜のスタンプラリーでは、この管内ではなすの3品種をターゲットとしまして、扱っている食堂で召し上がったらスタンプを押してもらい、応募すると、抽選で伝統野菜等が当たるというキャンペーンを実施しております。当支援センターでは飲食店に例えば伝統野菜等の特徴等をお知らせしつつ、新しいお店でのメニュー開発等も取組んでおり、今後も継続してまいりたいと思います。
- ・農業機械の研修については、農村生活マイスター協会の今度の計画のお話がありましたが、JAでも取組みされていると思います。様々な団体でもやっていますので、機会を捉えてご参加いただき、技術習得に繋げていただけたらと思います。
- ・価格高騰対策については、県でも第一弾として6月の補正予算で、国の配合飼料価格高騰緊急対策へ県の独自上乗せ助成で支援しておりますし、肥料につきましても、国が新しい高騰対策を立ち上げました。県ではそれに対して、化学肥料削減の取組割合に応じて上乗せ助成し、営農の継続に向けた支援をしているところです。今後、高止まりの場合に備えて、JAグループからも制度恒久化の要請もありまして、これについては国に要請してまいりたいと考えております。
- ・食育について、重点取組6で位置づけており、イベント等の場面を通じて消費者が環境に優しい、また環境に配慮して生産した農産物の視点をPRしてまいりたいと考えております。

#### <農地整備課 市瀬課長>

- ・農業生産基盤の確保について、とりわけ農業用水につきましても、欠かすことができないインフラですので、県の施策体系の中でも柱立てしてしっかり取り組んでまいり所存です。

#### <佐々木所長>

- ・ご意見とは別ですが、日本なし産地再生プロジェクトを6月からスタートし、その取組の一つに日本なしを使ったお土産品あるいはお菓子の開発があり、菓子組合に、新しい商品開発の提案をしました。お手元にお配りしたのは、中に「豊水」が入っており、市内の店舗で新開発され、まさに今日午後販売になるという焼き菓子でございます。この他にも何店舗かお願いしております、日本なしのシーズンは終わりますけれども、来年度に向けても新しいお菓子のデビューが期待できると思っております。

#### 【小澤委員】

- ・このような状況で中学校での職場体験がなかなか難しく、各企業を学校に呼んで、子供たちが希望するお仕事の話を知るといったキャリアフェスという企画を実施する学校が増えていると聞きます。来週私も栄養士として参加することになっていまして、23企業が参加します。ただその中に農業とか、農業に関わるお仕事をされてる方はいらっしゃらないです。今回、栄養士の仕事の魅力を伝えたいと参加しますが、どんな仕事でもですが大変な仕事が多いので、自分の仕事のいいところを子供たちに伝える方法についてはすごく悩むところです。そこで、今年栄養士になった若い栄養士からこの仕事に就いたきっかけ、やりがいの話をするを考えています。私のような経験を積んだ者が話すよりも、中学生が10年後の自分を想像できると思います。
- ・学校給食で農家が作った野菜を使いましたと子供たちに話をすると、とても喜ぶし、美味しいとよく食

べます。子供たちは給食で地元の野菜やお米を使っていることもよく知っていて、その大切さも良さもわかっていますが、中学生・高校生になったときに、自分の将来の仕事と繋がるかという点、そこは難しいと思います。台風で果物が傷ついたり、天候でうまく作れなかったなどテレビで見るので、大変とってしまうことが多いのですが、若い方がすごく生き生きとやっていて、この仕事かっこいい、自分もやってみたいと思えるようなプロジェクトや企画を中学生・高校生対象にできると、自分の将来の仕事の選択肢の一つに農業も入って、地元で根付いて農業をやってみようという子が増えてくると思いました。

- ・重点取組6について、学校給食での県産食材の利用割合は、全県で年2回6月と11月の第3週の県産農産物利用割合を報告しています。その1回の給食の中で使った食品の数のうち県内産の中の飯田下伊那産の数で出しています。地元の食材をできるだけ使うには、目標設定がとても大切です。第4次食育推進計画でも地場産物に係る食育、子供たちへの指導の回数を増やしていこうと今回目標としていますので、指導の回数を増やすとか、何かの取組活動を増やすという目標を一つ掲げるのも方法だと思います。

#### 【河合委員】

- ・阿智村の伝統野菜、赤根大根という蕪ですが、自分たちでも栽培して、清内路の人にも出荷してもらって、甘酢漬けを出していますが、場所が場所なので作り手も少なくなり、漬物需要が低迷し、本当、今に消えてしまうと非常に心配しています。
- ・若い人とか大規模の農業者は必要だと思うんですが、定年を過ぎた人たちで自分の土地があって、努力を惜しまずに楽しく野菜を作っている人が大勢います。土地もあってたくさん出来て、自家消費と人にあげたりした後は処分にも困るような農産物を何かうまく引っ張れるようなことができたらいいと思います。
- ・来週、下伊那農業高校生が3人実習にきます。一緒に仕事して、仕事が終わってから、社長に質問して、意見を聞いたり、勉強していきますが、将来その人たちが、地元農産物から商品を作ることに生かしていけたらいいと思っています。

#### 【松江委員】

- ・県計画の目指す姿について、売上額10億円以上の大規模農業法人が現れると、大規模化の方向が示されていますが、その下に家族農業、小規模農家などが地域で生き生きと暮らせるというのもありましたので、非常に大切なことだと思っています。大規模農業はできればいいですが、この南信州地域の特性で、なかなか大きな農地が確保できないという状況の中です。規模の小さな農家、半農半X、兼業農家も大勢おりますけれども、そういった方たちが、農地とか農村を守っているのも事実ですので、そういう皆さんが生き生きと暮らせるような社会を作っていくことは大変必要なことだと思っています。
- ・人・農地プランの実質化にここ数年取り組んできて、認定農業者、集落営農など、規模の大きな経営体しか中心経営体として認められなかったのですが、法定化により、小規模で兼業農家でも農業を経営する者としてやる気があれば、将来の担い手として認める仕組みと解釈しており、この大きな流れを大切にしていきたいと思っています。
- ・みどりの食料システム戦略では、あと30年弱くらいのうちに、日本中の農地の4分の1を有機農業にするという、非常に野心的な目標を掲げております。これを達成するには、今、積極的にやっておられ

る方への支援だけではとても足りないと思っております。今、社会の常識とか、農家の常識が、有機農業や環境に配慮した農業をやるのが当たり前だという風潮にならないと、なかなか実現できないと思っております。飯田市では農協、園協といった農業者団体としっかりタッグを組んでこの問題に取り組むことが必要と思っております。JA みなみ信州でもご理解いただいて、一緒にやっぺいこうということになっておりまして、研究していく段階に来ております。長野県にお願いしたいのは、JA 全農長野、JA 長野県中央会にも同じようにしっかり行政と取り組んでもらえるように、連携をとっていただくと、現場としても非常にやりやすくなると思っております。

- ・肥料価格高騰について、確かに毎年2回ずつ価格改定され、大体このところ10%ぐらいずつ値上がりしていたのが、この秋肥の改定で一気に50%以上上がる状況があり、非常に厳しい状況です。飯田市も先行して、独自の支援策で対応していますが、国、長野県の新たな支援策は非常にありがたいと思っております。ただ気になりますのが、飯田市の補助の場合は、市役所で受け付けます。今度の国の新しい支援策については、おそらくJAや肥料販売業者がまとめて受け付けて申請していく形になると思いますけれども、飯田市で1,700件くらい申請が出てくると想定しています。その事務量を考えても結構大変でして、人を1人雇うことも考えていますが、今度の国の支援、長野県の追加支援には事務手数料といえますか、事務推進費の支援が必要と感じておりましてご検討をお願いします。
- ・先ほどの新規就農するときに非常に困ったという件について、例えば書類の書き方、補助金のご案内、農機具を無料提供制度もご紹介でき、初期投資をあまりかけないで就農するための支援もしておりますので、市役所へご相談していただけるよう、ご助言していただくと助かります。
- ・事業継承について、例えば通常の農地でしたら農地バンクなりに登録して、借り手が新たに作物を植えていけばいいのですが、例えばきのこ栽培農家、畜産農家は大きな施設を抱えており、親元就農での後継者がいない場合、その施設が廃墟になってしまうことがあります。大変な設備投資でできた施設と思えますけれども、第三者になるのかもしれませんが、どういった事業継承をさせていったらいいのかということに、非常に悩んでおります。飯田市でも答えが出ていないところですので、また長野県とも一緒に考えていければと思います。

【高田委員】（ご欠席のため、事前にご提出のあった意見書を抜粋して紹介）

- ・南信州地域の発展方向、県全体の計画等についてもご意見を頂戴しておりますが、特に皆様におつなぎいただきたいと意向のありました点を中心にご紹介いたします。
- ・市田柿について、小さな規模でも可能な時点での栽培を行う、例えば、栽培の部分までは農家が行って、収穫から加工までの不足分はサポート団体が担うような、幅の広い栽培者を増やし、分業で作業し、全体として多くの生産量を確保していく仕組みを作ることの提案がありました。これは、市田柿に限らず、水稲などほかの品目でも同様に取組が必要とのご意見です。
- ・経営規模の大規模化への支援はありますが、設備投資に補助金を活用しても自己負担分が捻出できないくらい厳しい経営環境で、規模拡大も容易ではない状況です。この地域には大規模法人が少ないというようなこともありまして、小規模経営でも営農できる仕組み作りが必要であるというご意見がございました。

<佐々木所長>

- ・若い中学生といった皆さんが将来職業の選択の一つとして農業を選んでいただくことについて、この計画は5年間の計画ですが、毎年度単年度の計画を立てて進めてまいりますので、どんな企画がいいかこ

これから検討が必要と思います。皆が憧れるを、今回キャッチフレーズにしていますので、アイデア等もいただきながら検討してまいりたいと思います。

- ・重点取組6の達成指標として、子供たちへの食育指導の回数のご提案をいただきました。適正な評価ができる指標として、より良いものを目指していくことが大事だと思いますので、実態もお聞かせいただきながら、検討してまいりたいと思います。
- ・伝統野菜の生産者が少なくなってなくなってしまうことに危機感をお持ちの件について、南信州は信州の伝統野菜の3割くらいの品種を占める大変品種数の多い地域ですけれども、種子が万が一災害でなくなってしまうと、貴重な遺伝資源として後世に継承していくことができなくなります。長野市松代の原種センターで伝統野菜の種子を無料で保管する県の制度がございます。今現在、管内に25種類の信州の伝統野菜がありますが、そのうちの7種類しか保管されておりませんので、この制度をもっとPRして保管を進めるような取組を進めてまいりたいと思います。
- ・有機農業について、JAとも連携して進めていくということで、当然我々も一緒に取り組んでまいりたいと思っております。この課題はご承知のとおり、生産面で農家が容易に取り組めるような普遍的な技術が確立されていないことです。また、消費の面では有機農産物の生産にかかるコストあるいは労力が反映された価格で取引されていないことが課題と思っております。生産面では熟練の有機農業者が実践されている栽培技術の収集、普及、あるいは消費の面では学校給食での有機農産物の提供、理解促進、あるいは直売所等での有機農産物のコーナーを設けるなど、生産と消費の両面から関係の皆様と一緒に取り組んでまいりたいと思います。
- ・肥料価格高騰対策事業の事務費について、確かに件数が多く、ご要望いただいたということで繋げてまいりたいと思います。
- ・特にきのこ、畜産等設備投資が大きい経営体の事業継承について、ご指摘のとおり、県内でも廃業してしまうケースが過去に結構ありましたので、これについても園芸畜産課にも繋げまして、どんな方向がいいのか検討してまいりたいと思います。
- ・市田柿の栽培の分業化について、作業を細分化し、できるところを担い、別の担い手に引き継ぐというやり方のご提案と思います。収穫の部分は現在でも加工業者がやるというような事例もあります。多くの事例等も収集する中で、小規模な方が小面積でも一定程度生産に携われるような仕組み作りについては、多様な担い手、支え手の確保として検討してまいりたいと思います。
- ・小規模農家が営農できる仕組み作りについては、管内ではなかなか事例がないですが、集落営農というような方向性もあると思います。またこの点についても検討してまいりたいと思います。

#### <農業農村支援センター技術経営普及課 牧島課長>

- ・中高生に農業の魅力を伝えていく必要があるとのご意見について、従前から下伊那農業高校と連携して、飯田下伊那の若い農業者の組織する「かたつむりの会」がございまして、その方々と連携して、魅力発見セミナーとして農業の魅力を高校生に伝える取組を実施しております。最近では風越高校にも「かたつむりの会」の皆さんと農業の魅力を伝える取組を始めた経過もございます。今後もそのような活動を通じて若い方に魅力を繋げていくような仕事をしてまいりたいと思います。
- ・新規就農者の関係でございましてけれども、私ども毎年1回、6月頃新規就農者激励会を開催しております。是非激励会にもお出かけいただければ、多くの仲間とお友達になり、色々な情報もこちらからお伝えすることもできると思います。新規就農された方が孤立しないように、仲間づくりを進める仕組みを考えているところです。